

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200168		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム せきの憩		
所在地	岐阜県関市塔ノ洞2601番地		
自己評価作成日	令和 元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipkensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2190200168-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 元年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内衛生と清潔保持に注力しています。
例えば、利用者様の居室に設置してあるベッド脚部や底面など、見落としがちな目に見えない部位の清掃も毎日実施しています。
ホールにおいては太陽光を多く採りこめるよう、常にレイアウトを配慮し、動線を広く確保。さらに職員の言葉使いにも細心の注意を払い、尊厳をもったお声かけを実施しております。爽りのある暮らしを実現できるよう、職員一同努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お客様要望一覧表」を作成し、毎月「食事」や「レクリエーション」、「職員について」などの項目で、利用者一人ひとりの意向・要望を聞き取り、支援に繋げている。
毎朝の申し送りを、夜勤・早出・日勤のシフトの重なる時間帯に設定し、利用者の状態を職員全員が共有して支援している。さらに、接遇などの「5原則ルール」を読み合わせ、これまで通りの利用者のペースで生活できるように支援している。
職員の賃金格差を是正することで職員の離職を防止し、職員が定着することで、日常的な利用者へのサービスが向上している。「日常的な散歩外出」、「居室・居間などの共有空間の清掃」などによる衛生管理や清潔保持にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は出勤後、フロンティアグループ全体が掲げる「我々の5原則ルール」を唱和。意識を高めて業務に取り組んでいます。	法人理念に沿った「我々の5原則ルール」を事務所内やホールに掲示し、朝の申し送りの締めくくりとして唱和している。ルールに関する事例等を管理者が説明し、職員の意識向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近隣住民の方々へ、季節のご挨拶をしております。また、職員も、日常生活でのご挨拶を徹底しています。	散歩外出の際の挨拶や、近隣への季節ごとの挨拶など、周辺住民との良好な交流ができるように努めている。夏祭りやイベント開催時には声掛けし、ボランティアなども受け入れ交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学を随時受けつけています。認知症に伴う生活におけるお悩みについても、施設またはお電話でご対応いたしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、市職員様、地域支援包括センター様、民生委員様へ事前にご案内し、ご参加いただいております。皆様からの貴重なご意見は議事録に記載し、サービス向上に活用させていただいております。	行政や地域住民、民生委員、利用者・家族が参加し、運営状況の報告を主題とし、民生委員からは地域情報や防災対策など、有益な情報やアドバイスを得ている。昨年の目標達成計画の議事録改善もなされている。	目標達成計画は達成されているが、運営推進会議で進捗報告や意見収集・アドバイスを得て、より良いサービス向上に努めることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、月初に空室状況をご報告しております。また、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、ご参加いただいております。	運営推進会議に行政職員が必ず参加し、自治体の取り組みなどの情報を得ている。空室状況を報告し、生活保護受給者も利用しており、届出・報告など直接窓口へ赴いて相談・連携できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切しておりません。利用者様の行動を、施設職員が抑止することも一切しておりません。また、身体拘束について、定期的に勉強会を実施しています。	身体拘束委員会を毎月開催するとともに、定期的な研修や勉強会により「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。接遇や言葉遣いに気を付け、利用者様の行動を抑止しないような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者様の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、定期的に勉強会を実施しています。言葉使いにも細心の注意を払い、利用者様が不快にならないよう、職員間で注意喚起しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についても定期的に学ぶ機会を持ち、情報共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書、終末期医療などについて管理者が説明し、質疑応答の時間も設け、ご納得いただいた上でご契約いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に、自由に投稿できる「ご意見箱」を設置しています。 また、法人代表取締役へ直接電話連絡していただくことも可能です。	運営推進会議や面会時に時間を取り、意見・要望の聞き取りをしている。毎月のお便りには利用者の個人写真を多く掲載し、生活の様子が分かるように工夫し、家族から好評を得てる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者は常時意見交換を行っており、施設内で解決できない問題においては管理者会議を通じて本部へ報告、フィードバックを採り入れ、施設運営に反映させています。	毎日の申し送り時に随時意見交換し、内容によりホーム内での対応や本部へ報告して対応し、ホーム運営に反映させている。法人内での賃金格差是正により、離職防止に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度を導入。 さらに、年齢、経験、保有資格などに応じた給与、賞与支給のシステムが整備されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者は、法人内研修で資格取得が可能。 また、社外研修への参加も可能。 いずれも業務として参加し、心身に負担の少ないシフト調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のイベントに参加し、情報交換などネットワークづくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、ご本人様・ご家族様と必ず面会し、入所に際し不安なことやご要望など事前におうかがいします。 安心して暮らせる環境をご提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供開始前、開始後も、ご家族様が困っている事や不安なことを随時受けつけ、改善に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャと連携してニーズの見極めを行い、ケアプラン・サービス内容に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室清掃、調理、食器洗い、テーブル拭き、洗濯物の折りたたみなど、ご本人様の無理のない範囲で役割をご担当いただき共同生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の請求書に同封の、「せきの憩だより」でご家族様への近況報告を行なっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設は年中365日来所可能で、馴染みの方やご友人、遠方の親類など、様々な方がお越しになります。	地元出身の利用者が多く、家族の他に友人・知人の面会もあり、家族が古い友人・知人を連れて面会に来ることもある。馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、出来る限りの対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適宜ホール内レイアウトを変更し、孤立せず、より会話のしやすい環境をご提供できるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も、各種お問合せやご相談を随時受け付けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「お客様 要望一覧表」を設置。毎月、ご本人様のご要望を職員がヒアリングし、記録しています。順次対応いたしております。	毎月のモニタリングを兼ねて「お客様要望一覧表」を作成し、食事やレクリエーションなど、利用者個々の希望・要望を聞き取って記録している。記録した内容は順次対応するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の生活歴や馴染みの暮らし方を尊重し、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録(電子式)を1時間毎(夜間は2時間毎)に入力し、さらに業務開始前の申し送りでも再度確認と現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様のご要望を積極的に採り入れ、管理者・介護職員・各種専門職の意見も反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	短期は6ヶ月、長期は1年での定期見直しをしている。状態に変化があったり、毎月の「お客様要望一覧表」から意向を汲み取った場合には、都度見直しをして現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践・結果を介護経過記録(電子式)に保存。導入後の全てのデータを保存しているため、職員間で情報共有し、介護記録の見直しにも活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応するために、ケアプランの見直しの検討や実際に変更するなど、適宜実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア慰問などを定期的に計画・実施し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医療機関ともに、ご本人様とご家族様のご要望をおうかがいして決定しています。 月2回の内科往診、月1回の精神科医往診、歯科医師による往診あり。	全員がホーム協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。通院は家族対応であるが、柔軟な対応をしている。精神科や歯科の往診も受け、24時間対応の看護師と連携して利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者様の心身状態の把握に努めており、24時間常時看護師に連絡できる協働体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至る経緯や施設での近況、ご様子などを可能な限り詳細かつ速やかに医療機関へ情報提供しています。入院中も訪問するなどし、状況の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、「終末期医療についての事前調査」「重度化した場合における対応にかかる指針」をご記入いただき、事業所での対応などについてご説明を行なっています。	入居時に「重度化指針」を説明し、重度化に際し医師の協力も得て、最適な対応ができるように取り組んでいる。家族からも「最期はここで」との要望を受けることも多く、本人・家族の意向に沿った看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に迷う事なく迅速に対応できるようフローチャートを作成し、ホール内に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回、消防・避難訓練を実施しています。内1回は、夜間を想定した訓練です。万一の際安全に避難誘導できるよう、全職員が学習しています。	火災想定避難訓練を年2回、昼・夜想定で実施し、安全な避難誘導の訓練をしている。台風や豪雨などの災害が想定される際には、管理者が近隣で待機し、被災時は法人本部の協力を仰ぐ手順となっている。	AEDの操作講習などを実施する際には、近隣住民の参加を求めるなど、近隣住民の理解や協力を得られるような工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉使いにも注力しており、お一人おひとりの人格、尊厳、プライバシーに配慮した介護を心がけています。	接遇研修では、「家族がいる」と思って、命令口調にならないなど、一人ひとりの尊厳を確保する声掛けを学んでいる。アセスメントで利用者の呼称も確認するなど、馴れ合いにならない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての場面において自己決定を最優先し、画一的な支援にならぬよう、職員は細心の注意を払っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を強要、強制することはありません。 お一人おひとりのペースを大切にした支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装も、自己決定により選定していただいています。 また、訪問理容による定期的な整髪も実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の食卓に職員も同席させていただき、会話を楽しみながら家庭の団欒の雰囲気再現しています。 配膳などもご利用者様と職員が一緒に行うこともあります。	職員と談笑しながら食事を摂っている。配食サービスを利用し、利用者の状態によりお粥食や刻み食、ペースト食など、食が進むように工夫している。外食やイベント食も取り入れ、利用者の楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分接種量をデータ管理し、一日の摂取量の管理、確保ができるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。 歯科衛生士・歯科医師の訪問による定期受診も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居後、約1週間にわたり排泄のパターンや習慣などを検証し、その後も自立に向けた支援を行なっています。	利用者ごとの排泄はパターンを把握し、見守りや声掛け、誘導によりトイレでの排泄ができるように支援している。失禁の多かった利用者をトイレ近くの部屋に替え、失禁回数を減少させた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳など乳製品をおやつに採り入れる工夫をし、状況に応じてナース・医師へ連絡相談。薬剤の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはご本人様の希望を尊重しています。また、入浴剤を使用して心身ともにリフレッシュできるよう配慮しています。	週2回の入浴を基本とし、希望を優先して入浴できるよう支援している。柚子湯や菖蒲湯などを行い、入浴時にも季節を感じるができる。タイル張りの床のため、安全や温度管理にも注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を職員が指定することはありません。朝まで気持ちよく熟睡できるよう着用する介護用品を慎重に選定し、就寝前・就寝中の排泄パターンも考慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をもとに各職員が効能を理解し、症状の変化については、ナース・医師に報告しています。常に最適な薬剤をご提供できるよう調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物の整理などの役割を担当していただき、張り合いや喜びのある日々を過ごしていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	肌で季節を感じていただけるよう、定期的な外出イベントなどを計画・実施しています。	家族支援により、買い物や近隣への散歩など、できる限りの外出に努めている。より多くの利用者が参加できるよう、季節ごとの外出を企画して実行している。職員も安定し、散歩などの日課としての外出が可能となった。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の意向を尊重し、現金の所持管理、財布の所持管理を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ダイヤル操作が困難なご利用者様の場合、職員がダイヤル操作を代理するなどし、ご家族様との交流を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内レイアウトを適宜変更し、生活の妨げにならないよう動線の確保などを考慮しています。 太陽光を多く取り込み、自然の景色を楽しんでいただけるよう工夫しています。	居間の壁面は、季節を感じる装飾をシンプルに施している。利用者の動線も考慮して「テーブルやソファを配置し、安心・安全に過ごせる工夫がある。窓から差し込む陽光の下、廊下で椅子に座って日向ぼっこしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で会話のしやすい食卓の配置や、ソファの配置を心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人様やご家族様で自由にセッティング可能です。 使いなれた寝具や家具、オーディオやテレビの設置なども自由です。	居室は、利用者や家族の意向・要望で自由に装飾・レイアウトされている。使い慣れたタンスやテレビ、ぬいぐるみなど、入居前の生活環境が継続できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は、シンプルでわかりやすい展示を心がけ、安全かつ自立した生活を送っていただけるよう工夫しています。		